



vol.1 このコーナーは、小田川市長が掲げる今年の漢字「越」にちなんだまちづくりを紹介するコラムです。

日本一住みやすい街を目指して

問 伊奈庁舎総務課デジタル推進室（内線2108）

もっと市民に寄り添える
コミュニケーションツールはないか

子育て世代の市民と行政とのコミュニケーションをより深くすることで、市民の子育てに関する課題や悩み事を解決したいという思いから、令和2年1月、HENNGE(株)と「子育て支援による地域活性化に関する包括連携協定」を締結しました。

同社の双方向コミュニケーションツール「SumaMachi」を公立保育所、子育て支援センターに導入し、電話連絡や、紙でのおたより配布などの業務をデジタル化する実証実験を開始しました。この実証実験により、なかなか取り組むことのできなかつた壁をデジタル化により越えることができ、市民・行政とも毎日がスマートに変わりました。

声をつなぐ、みらいをつくる

ICT技術により市民との双方向コミュニケーションをさらに加速させるべく、令和3年9月、以前の協定を発展させ、新たに「テクノロジーの開放でくらしをへんげ！つくばみらい市DXに向けた包括連携協定」を締結しました。

子育て世代を対象としていたものを市民全体に広げ、市民の声をタイムリーに把握し、地域活性化および市民サービスの向上・提供につなげていく実証実験を行います。

この実証実験をとおし、市民と行政との双方向コミュニケーションの壁を越え、日本一住みやすい街を目指します。

「あなたの街を、スマートに」
「あなたの街に、スマイルを」



SumaMachi

